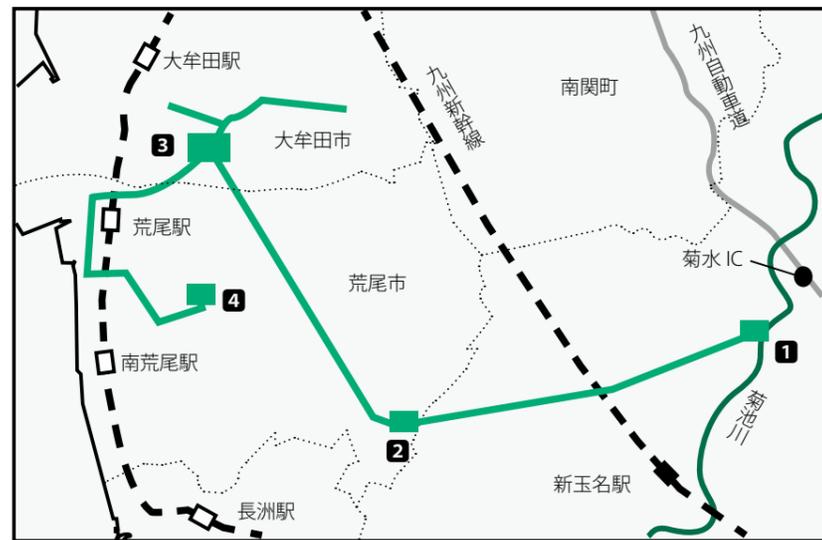


新しい水の流れ



ありあけ浄水場の所在地 大牟田市臼井新町1丁目36番地1
 水道局総務企画係 ☎ 64-3317

- 1 白石堰**
 菊池川の中流域に位置する、ありあけ浄水場の水源。上流の菊池水源は環境省の名水百選に選ばれる。
- 2 金山分水場**
 金山分水場はありあけ浄水場よりも高い位置にあるため、水はポンプ（電気）を使わない自然流化方式で運ばれる。
- 3 ありあけ浄水場**
 膜ろ過方式で微細な不純物を取り除き、安心安全な水になる。
- 4 荒尾市中央水源地**
 荒尾市水道局にある、水を市内に送る中継地点。ここで地下水とありあけ浄水場から送られてきた水をブレンドし、市内約16,500世帯に送水する。

水道事業管理者に聞く

新しい水道事業のかたち



◀ 荒尾市水道事業管理者 村上寧浩さん

水道事業者に求められるものは、安全・安定・持続です。市民の皆さんが直接的に水のお届けを大変喜んでくださいます。この安全・安定・持続という役割を果たすのがありあけ浄水場です。待望の浄水場が完成し、市民の皆さんに水をお届けできることを大変喜んでくださいます。ありあけ浄水場は大牟田市と共同で建設し、民間企業に建設から維持管理までを委託しています。荒尾市と大牟田市の取り組みが全国の広域化・官民連携の起爆剤になるよう努めていきます。

▶ 前大牟田市企業管理者 西山安昭さん (平成24年3月31日で退任)



大牟田市と荒尾市では、料金格差や経営環境の違いなど問題は存在していますが、一つの事業体として運営できると考えています。共同運営することで、災害時には相互に水を供給することも可能になり、災害に強いまちづくりにもつながるのです。今回の共同浄水場建設が、みやま市、柳川市、長洲町や南関町などの周辺有明地域にも広がり、より広域的な事業に展開していくことを願っています。宮原坑、万田坑と世界遺産登録を目指す両市は共同浄水場を契機に、ますます関係を深めることでしょう。



ありあけ浄水場

荒尾市水道局・大牟田市企業局が大牟田市臼井新町に共同で建設した「ありあけ浄水場」が完成しました。4月1日（日）に供用を開始し、市民の皆さんに新しい水をお届けします。

新しい水の道

県境を越えた広域水道 大牟田・荒尾共同浄水場完成

浄水場建設への背景

炭鉱と共に栄えた、荒尾市と大牟田市。両市には古くから三池炭鉱（現日本コークス工業）の専用水道が、住宅や周辺家屋にまで整備され、生活用水を給水していました。市域内に2つの水道が存在することは、行政の運営上さまざまな不均衡が生じていました。そのため両市にとって水道の一元化に必要な水源の確保が長年の課題となっていました。

さらに、近年井戸水の塩水化などによる既存水源の水質変化も顕著となり、平成20年に菊池川の水利権を取得し、共同浄水場の建設へ踏み切りました。

先駆的な広域水道

荒尾市と大牟田市は生活圏を共有していますが、熊本県と福岡県との県境に位置しています。共同浄水場の建設への協議は難航を続けてきましたが、先駆的

な取り組みとして、国や県からの支援を受け実現しました。これは日本初の取り組みとして全国から注目されています。

共同浄水場のメリットは①建設コストの削減②既存施設の有効活用③職員の育成強化④水の相互運用があげられます。特に④では災害発生時に両市で水を融通することが可能となります。

浄水場の特徴

- ① 水質の小さな変動にも即座に対応して安全で安定した水質を確保できる。
- ② 高低差を利用し、水を送ることで、電力量を最小限に抑えることができる。
- ③ シンプルな施設なので、維持管理が容易であり、浄水池まで外気に触れない構造で安全性が高い。
- ④ 高い浄水能力をもった膜ろ過方式を採用し、耐久力もある。維持管理は15年間の契約で、有明ウォーターマネジメントが請け負います。